

四万十川で見られる「あわ」

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。
今回は四万十川で見られる「あわ」についてお知らせしたいと思います。

四万十川中下流域で、多数のあわが集合したものや筋状に並んだあわが流れる様子を目にすることがあります。「あわの発生は、家庭排水の洗剤が流れ込んでいるためではないか？」と懸念する声もあがっています。高知県環境研究センターが行った平成10年4月から平成12年4月までの調査の結果、原因物質として洗剤等の人工的な界面活性剤ではなく、水中の藻などから溶け出す「多糖類」が有力視されることがわかりました。これらの「あわ」の発生は自然のメカニズムが引き起こす現象と考えられること、また「あわ」の発生防止は困難であることなどから、今後はあわの正体を理解してもらうために、流域内外にこの情報を発信していきたいと考えています。

図1 あわ発生のしくみ

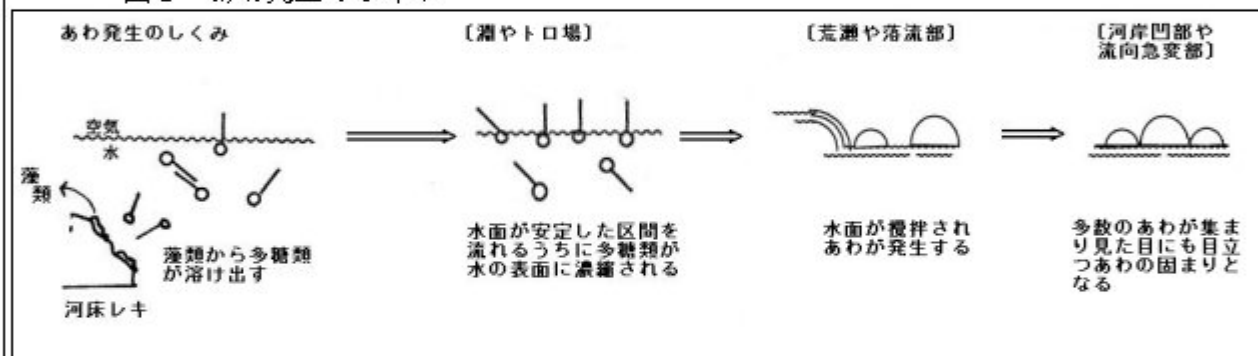


図2 中村市高瀬橋付近(H11.8)



☆うえの多糖類は、次のような性質を持っています。
・疎水基（水となじみにくい）と親水基（水になじみやすい）を持つため、水と空気の接触面に集まりやすい
・表面張力を低下させ、水をあわ立ちやすくする

淵やトロ場、荒瀬などは四万十川固有のものではありませんが、四万十川は河床勾配が緩やかで、長大なトロ場が存在するなどの特徴があるため、他の河川に比べてあわが発生しやすいと考えられています。

なお、現地調査の結果、黒尊川（四万十川の一次支川）上流部の清冽な水域をはじめ、上流・本支川を問わず、水系全体であわの発生が確認されました。

トピックス

○第8回四万十川大学院開催

平成12年10月14・15日に大野見村で四万十川大学院を開催。14日は女性が語る四万十川の未来「四万十川の美しさとその明日」、講演「人の勝手都合と魚たち一魚から見た四万十川」15日はワークショップ「みんなで考えよう！四万十川の未来」の開催が予定されています。

【問い合わせ先】

第8回四万十川大学院実行委員会事務局 大野見村建設課 TEL:0889-57-2021 (代)

次回(11月10日発信)は『沈下橋の文化的価値』を予定